標題：きもの文化伝承のためにゆかた着装体験を含む教員研修が果たす役割

著者名：大矢幸江*1
薩本弥生*2
川端博子*3
斉藤秀子*4

著者所属：＊１　東京学芸大学大学院　連合学校教育学研究科
＊２　横浜国立大学　教育学部
＊３　埼玉大学　教育学部
＊４　山梨県立大学　人間福祉学部

Key words　ゆかたの着装
教員研修
きもの文化
教師のきもの知識
授業の有効性

著者名の英語表記
Sachie OYA;　Yayoi SATSUMOTO;　Hiroko KAWABATA ;　Hideko SAITO

和文抄録
ゆかたの着装を含む授業を通して、生徒がきもの文化に興味関心を高めることを目指す教育プログラムを普及させるためには、家庭科教員のきもの文化に関わる知識や技能の現状を把握することが重要である。教員研修の機会に、きもの文化に関する講義やゆかたの着装実習を含む講習を実施する機会を得たので、受講者を対象にアンケート調査を行った。アンケートの解析結果から、ゆかたの着装を扱う授業の実践には、教員側のきものの知識とゆかた着装の技能の向上により自信をつけることが、授業導入意欲を高める上で必要であることが明らかとなった。教材やアシスタント不足という環境側面は、多くの教員がアシスタントの不足、ゆかたを含めた教材不足があると考えていたが、そのことが授業で扱わない要因ではないことが明らかとなった。教員が授業実践例を知り、家庭科で扱うことの意義や内容を知ることにより、授業の有効性を感じ、そのことが授業で扱いたいという導入意欲につながることが示された。